

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2022.11 vol. 199

TAVI 500例

当院は循環器診療の中核病院として、標準治療を中央に遅れることなく、鹿児島の患者さまに安心安全に提供する責務を担っております。大動脈弁狭窄症に対する治療、経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)は、2017年6月に当院が

鹿児島県で最初の症例を経験することができ、多くの患者さま、医療機関の皆様を支えられ、誠実に診療を続け、2021年にはTAVI年間症例数127例、全国17位、九州2位の実績でした。治療開始から5年4カ月が経過し、2022年10月に通算500例目を迎えることができました。これまでには自己拡張型を使用したTAVI、心尖部アプローチのTAVI、鎖骨下動脈アプローチのTAVI治療も経験してきました。さらに2022年になって当院は九州で3施設目となるTAVI指導施設の認可をうけ、以前留置された外科的大動脈弁の弁機能不全患者さまに対して、追加してTAVI弁を留置する治療(TAV in SAV)、また今まで適応外で治療できなかった透析患者さまの大動脈弁狭窄症に対しての治療を行うことができ、多様化する患者さまの病態に応じた治療をおこなえるようになりました。

しかし統計学的には大動脈弁狭窄症の治療を必要としている患者さまが、いまだ鹿児島県に6300人、鹿児島市に1800人存在していると推定されています。当院ではこの数年、年間100例を超えるペースでTAVIをおこなっていますが、まだ治療が必要な患者さまに適切なタイミングでTAVIを施せていないと思われます。患者さまの多くは高齢で、複数の合併症を有しており、その治療は慎重に行わなくてはなりません。そのためには循環器内科医師、心臓外科医師、麻酔科医師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、臨床工学士、理学療法士、医療クラークのメンバーから構成されるハートチームの存在は不可欠で、チーム一丸となって一步一步治療を実践しています。30名を超えるチーム構成となりますが、それぞれがより一層の改善をめざし、日々精進しています。

従来は心臓外科手術が適応となっていた比較的若い患者さまにもTAVI適応が広がる傾向があり、長期的に良好な予後を見据え、今後より慎重な治療選択を迫られます。また以前は大動脈弁狭窄症と癌などの合併症を患った高齢の患者さまへの積極的な治療を控える傾向がありました。しかし、このTAVIが導入されたことにより、積極的な治療方針へ変更されるケースもあるようです。私達もどの選択が正解なのか、絶えず模索しながら、日々診療を行っていかねばならないと改めて痛感しております。

大動脈弁狭窄症という疾患を通してではありますが、疾患のみではなく、患者さまの健康を、さらにそれぞれの人生がよくなることにお役に立てるよう、チーム一丸となって今後も精進してゆきます。改めて一緒に闘っていただいた患者さま・そのご家族の皆様、支えていただいた医療機関の皆様へ感謝申し上げます。

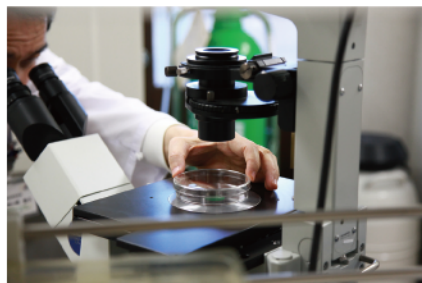
(文責：第一循環器内科部長 片岡 哲郎)



部門紹介

臨床研究部

臨床研究部は1999年10月に設置されました。当初は病態生理研究室、医用工学研究室、画像診断研究室、臨床疫学研究室、治療評価研究室の5室で運営されていましたが、2007年に治療評価研究室を臨床研究推進室に名称変更を行い、さらに2013年からは治験管理室を加え、現在1部6室で活動しています。2006年に東病棟8階に臨床研究部・治験管理室が作られましたが、2018年4月の通信病院機能移転に伴い、臨床研究部は別棟の旧更衣棟に、治験管理室は事務棟に移転しました。



2009年に当院に設置された鹿児島大学大学院医歯学研究所の連携大学院ではこれまで3名の大学院生が学位を取得しました。鹿児島大学所属の大学院生2名にも指導を行いましたので、計5名が臨床研究部で学位を取得したことになります。このような大学院生の研究指導はもとより、科学研究費補助金申請の事務局業務、研究不正や研究費不正使用防止のためのeラーニング教育の統括業務も臨床研究部で行っています。



臨床研究部に関する最近のニュースでは、これまで臨床研究部には運営費交付金が交付されていましたが、機構本部と国との交渉があり、公経費負担と運営費交付金が相殺する形で両者とも実質ゼロになることが2020年に決まりました。今後は運営費交付金ではなく機構独自の助成金という形になりますが、国立病院機構のスケールメリットを活かした研究が進む可能性を秘めていますので、ピンチをチャンスととらえて前に進むことが大事だと考えています。

次に治験管理室についてですが、室長に臨床研究部長、副室長に臨床研究推進室長、事務局長に薬剤部長、契約担当として業務班長、そして専任治験コーディネーター2名（薬剤師1名、看護師1名）の構成で治験の推進に努めています。また、非常勤の治験コーディネーター1名と治験会計事務員が1名配置されて、治験業務のサポートを担っています。EBM研究・NHOネットワーク研究補助者として1名配置されており、治験コーディネーターをサポートしています。

コロナ禍で暗いニュースが多い中、治験管理室に嬉しい出来事がありました。看護師で治験コーディネーター（CRC）の堀ノ内智子さん、日本臨床薬理学会が認定する認定CRCの試験に合格した事です。CRCになるためには国家試験はありませんが、学会や業界団体がCRC認定試験を実施しており、CRCの質の保証がなされています。

CRC認定資格としては、日本臨床薬理学会認定CRC、日本SMO協会公認CRC、日本癌治療学会認定CRCなどがありますが、堀ノ内さんはその中でも最も難しい資格といわれる日本薬理学会認定CRCに合格しました。この認定CRCの資格がなければCRCになれないことはありませんが、CRCとしての高度な知識や経験があることを担保する資格になります。当院での日本臨床薬理学会認定CRCは、10年前に合格した福石さんに続いて2人目です。今年度になって新規課題の案件は続々と来ていますので、堀ノ内さんが認定CRCとして実力を発揮していただけるものと期待しています。

（文責：治験管理室長：城ヶ崎 倫久）

外 来 紹 介

現在外来では、がん、循環器、脳卒中を柱とした21診療科で外来診療を行っています。

一日平均外来患者数は408.6人、紹介患者数は月平均620人です。がん診療科においては、鹿児島県全域から紹介を受けており、手術・放射線治療・化学療法など専門的な治療を行っています。外来化学療法件数は年間2389件です。昨年度から専従の薬剤師が配置され、お薬相談に即対応可能となり、患者さまがより安心して治療を受ける体制が構築されました。

循環器疾患と脳血管疾患においても、鹿児島県全域より紹介を受け専門的な治療を行うのと同時に救急受け入れも行っています。月平均289人。救急搬送される患者さまは、主に心筋梗塞・狭心症・心不全・胸腹部大動脈瘤等が多く、脳血管疾患では、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血等の疾患となっており、高齢の患者さまが大半を占め、今後ますます増えていく疾患と思っています。

2020年よりCOVID-19の発生に伴い、感染対策強化が必要になってきました。外来でも救急外来でも、フロアが狭く、密になりやすいため、患者さまにはご迷惑をおかけしております。感染対策として、患者さま付き添い人数の制限、受付時間を予約の1時間前に変更、フロアの換気等に注意しながら外来診療をおこなっています。

外来で働く看護師については、スタッフの67%が子育てをしながら働いています。

また、当外来には、2名の認定看護師と1名の特定行為修了看護師が在籍しており、より専門的な看護の提供にも力を入れております。

がん化学療法看護師は意思決定支援を担当し、患者さまの思いや不安など聞き取り、患者さまの要望の橋渡しを行い、化学療法をうける患者さまのケアなど行っています。また、糖尿病看護認定看護師は、生活指導や、フットケアを行い、患者さまの状態が悪化しないよう支援しています。特定行為修了看護師は「褥瘡または慢性創傷の治癒における血流のない壊死組織除去」、「脱水症状に対する輸液による補正」、「創傷に対する陰圧閉鎖療法」の3行為を有し、医師の指示のもと手順に従い患者さまの処置を行っています。さらに当院では看護専門外来も行っており、週1回リンパ浮腫外来、フットケア外来、ストーマケア外来を実施しています。

今後、益々高齢化していく社会に対応できるように私たち外来スタッフは、患者さま、ご家族、地域とのつながりを大切に患者さまの目線に立った、「安心の看護」、「信頼される看護」、「責任ある看護」の提供に努め、「鹿児島医療センターに来てよかった」と喜んで頂けるよう日々研鑽していきたいと思っています。

(文責：外来師長 福元 京子)



化学療法室



フットケア外来



外来フロア

新任紹介



麻酔科

牧内 祐貴

10月より鹿児島市立病院から当院麻酔科に赴任しました牧内祐貴です。鹿児島医療センターでの勤務は今回で2度目となります。4年前になりますが初期研修医の時にお世話になり、多くの先生方や医療スタッフの方々に指導していただき、大変充実した研修を行うことができました。今回は麻酔科医として、当院に貢献できるように日々精進して参りたいと思います。半年間という短い間ですが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



眼科

田代 葵子

2022年10月より眼科に勤務させていただくことになりました。今回私自身初めての一人体制での勤務となり、身の引き締まる思いです。検査や治療体制が十分でなく、ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、大学病院と密に連携をとり、少しでもお役に立てるよう精一杯努めさせていただきます。何卒宜しく願い申し上げます。



外科

風呂井 敦

2022年10月から当院外科に赴任しました。前任地は指宿医療センターでした。国立病院機構間での移動となります。1年ぶりの鹿児島医療センターへの赴任となります。いろんなことを思いだしながらの診療になり多くの人にご迷惑をおかけしますが精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



耳鼻咽喉科

田中 智規

2022年10月より耳鼻咽喉科に赴任しました田中智規と申します。前任地は鹿児島大学病院でした。鹿児島医療センターでは初めての勤務になります。まだ勤務して1週間ですが、毎日大変充実した後期研修を送ることができております。不慣れな面も多く、スタッフの皆様に支えられながら毎日過ごしております。まだまだ未熟でありご迷惑をおかけすることがあると思いますが、日々努力して参ります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

メディカルサポートセンター

地域連携室専用FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

